

禁忌

を犯す。

囚われの少年は

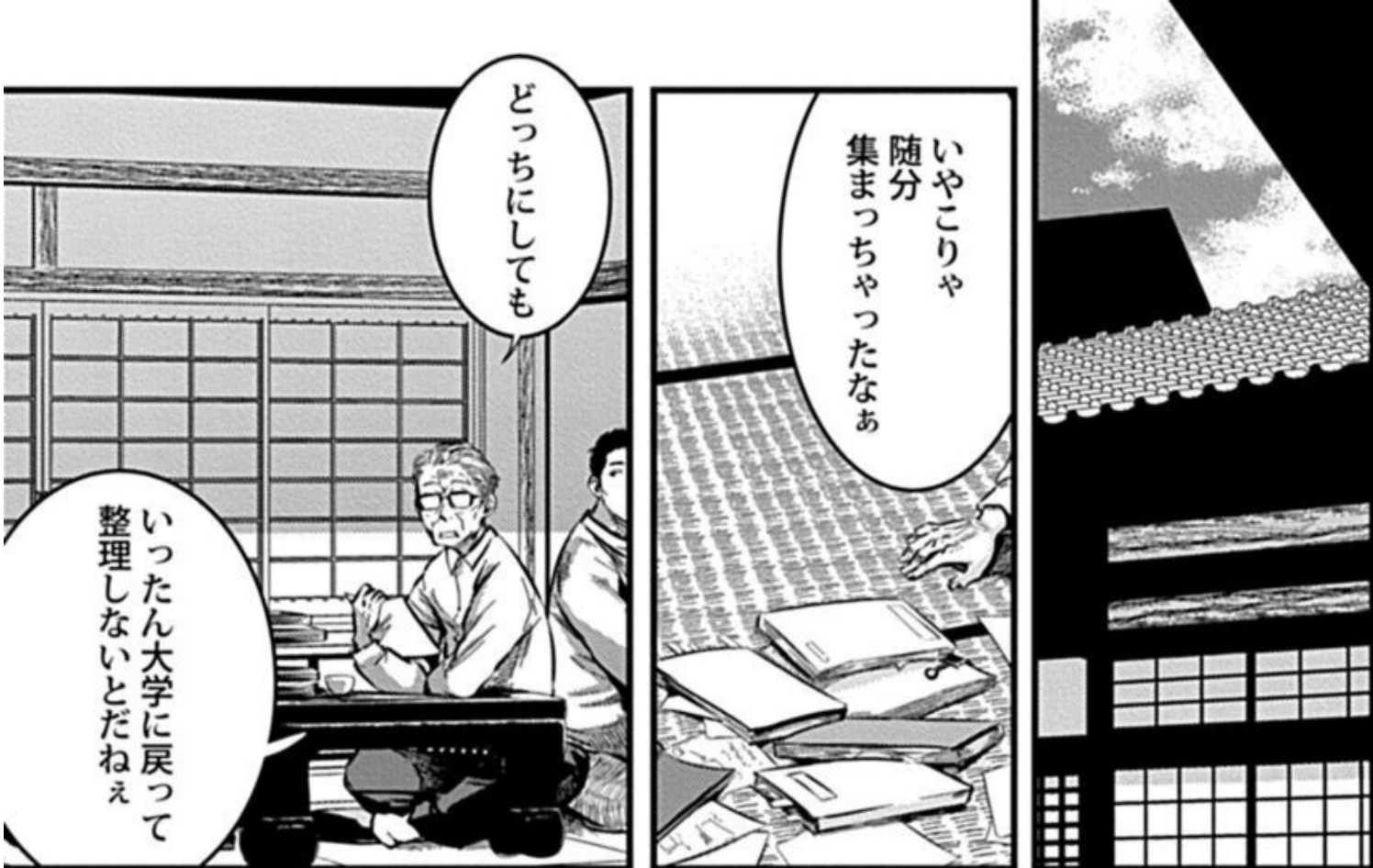
Tsukumo GO
presents

つくも号

落ちる群れ
白い花



Adam [アダム]



二度ほど
透のいる離れを訪れた



あの夜のことなんて
何もなかったかのように
振る舞う健気さが



逆に僕を苦しめた







この男への

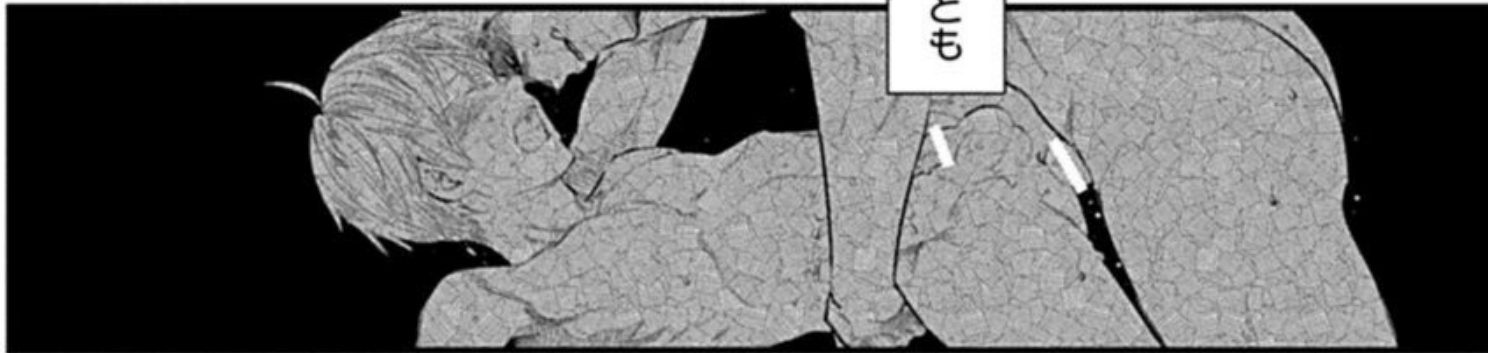
この気持ちは
なんだ



小野寺さんには
随分お世話になって

いえ
なんのお役に
も
立てませんで

嫌悪？



それとも



羨望……



そんな
まさか

僕は

あのこを…



…帰ることに

なったんだ…





僕も
一緒に行く

えっ

一緒に
行きたい！

好きなんだ

高輪さんと…

いやそれは…

高輪さんのことが…





僕が

…汚れてるから？



どうしてダメなの？

僕が男だから？

こんな姿だから？

ちが…

それとも





言ったろう？

僕には
君が必要だって



僕も
君と

離れたく
ない…

そう



ずっと
触れたかった

この美しい髪に

肌に

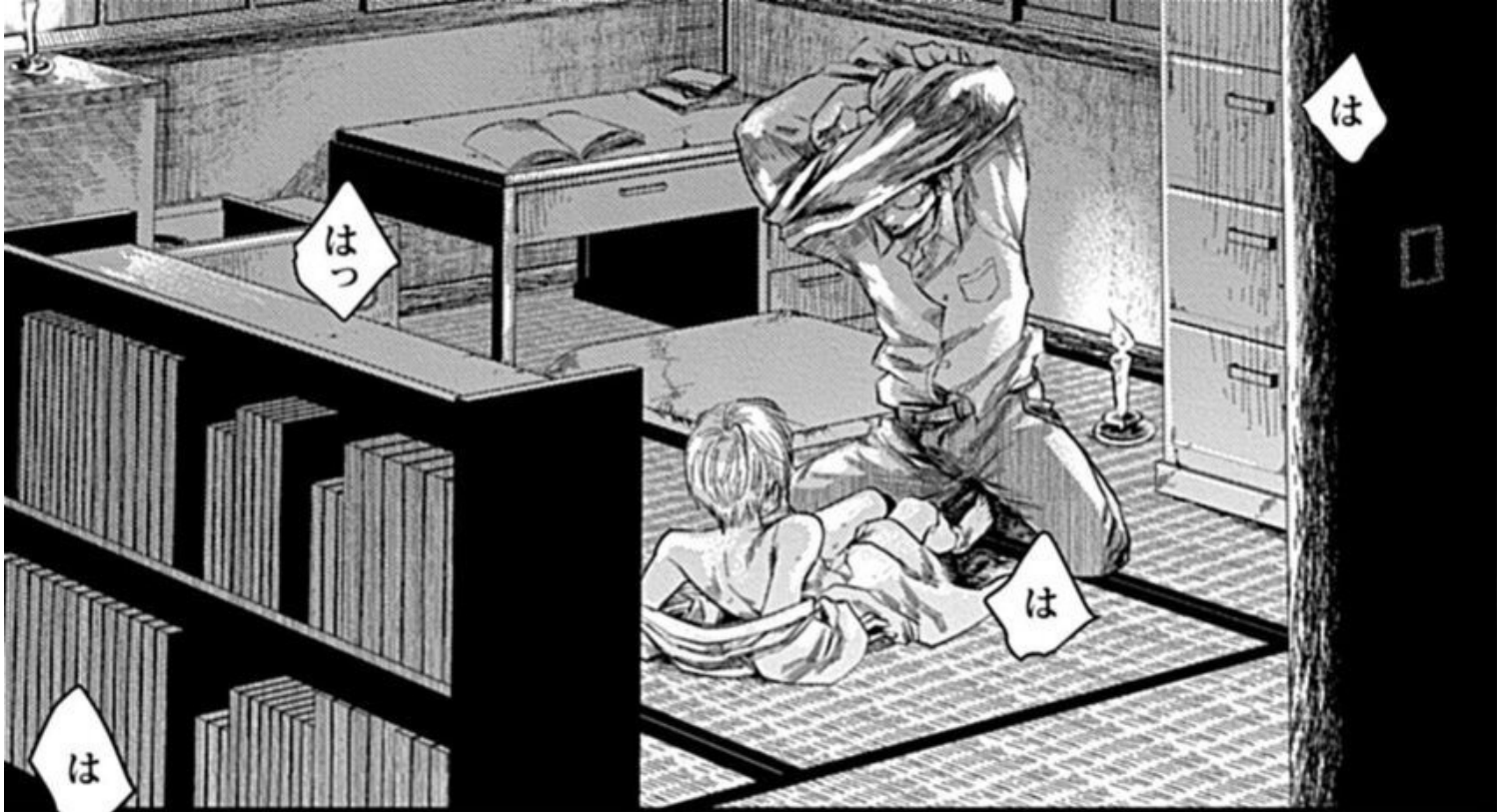
ん…

あ
たかなわ
高輪さ…

はっ

高輪さん…っ





僕は

最初から
魅入られていたのだ

あ

あああ…っ

この美しい
少年に

…平気
高輪さん…

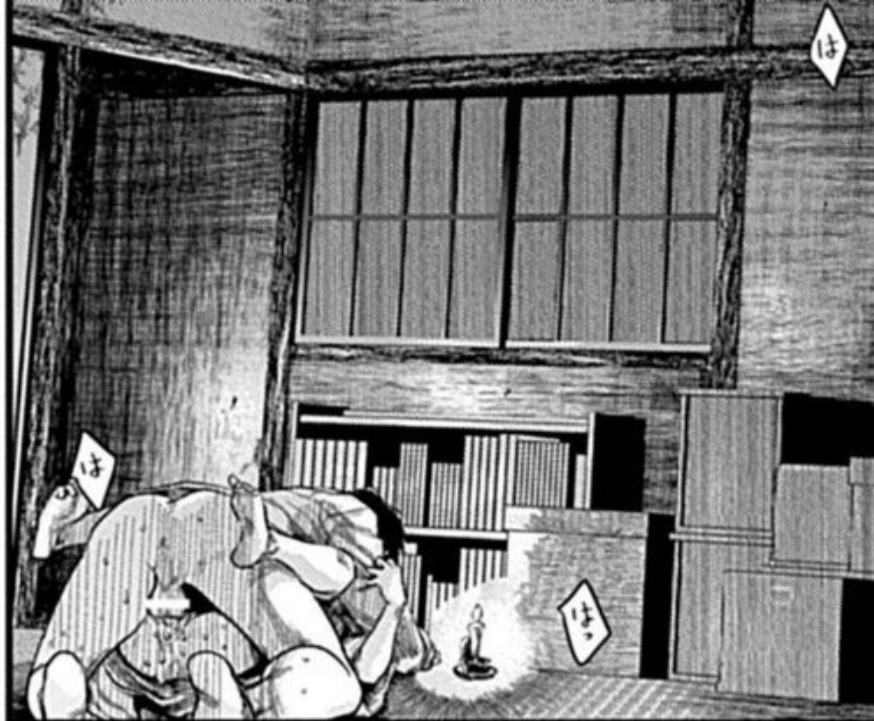
はっ

はっ

辛い^{つら}くない…？
透くん…

嬉しい…

はっ





もっと

高輪さんに
気持ち良くなって
欲しいんだ。



嬉しい

高輪さんが

僕を
求めてくれて



あ
ちよつ

僕も



あ
あー...

透く...ん...っ







君にも見せたいな

やっぱり
男を啜^{くも}え込んでやがったか



なんとか
君のお父さんに
許しをもらって



一緒に
この村の外を
見に行こう







村を出てく
だって？

そんなこと



うるさいっ

余所者は
ひっこんでろっ

カリッ



おまえには

や



やめ…っ

できないん
だよ！

ひい

びん



こりゃいかん…



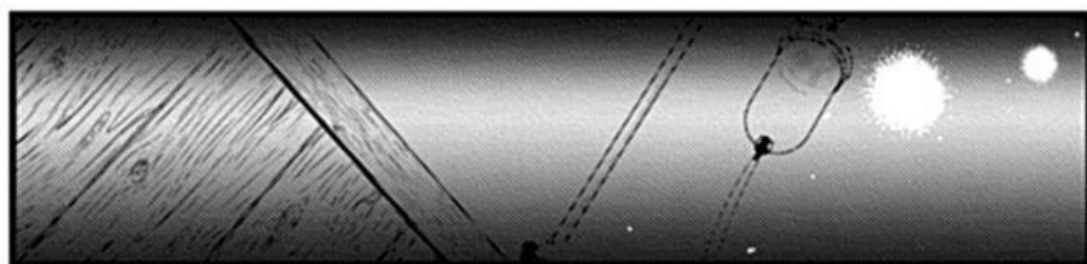
手を…っ



透くっ
ッ



透くん
こっちに
ッ





火の回りが早く

消火も虚しく
全て崩れ落ちたという

焼け落ちた土蔵の跡から
見つかった遺体は一人だけ

年格好
歯の治療痕から

あの小野寺という
男だろうとの
ことだった

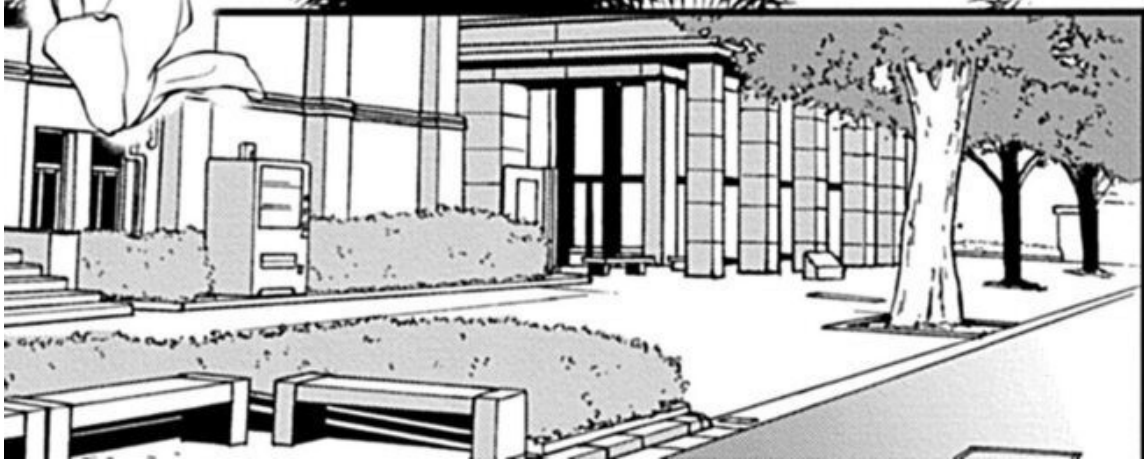
僕は周囲に必死に
透の安否を訊ねたが

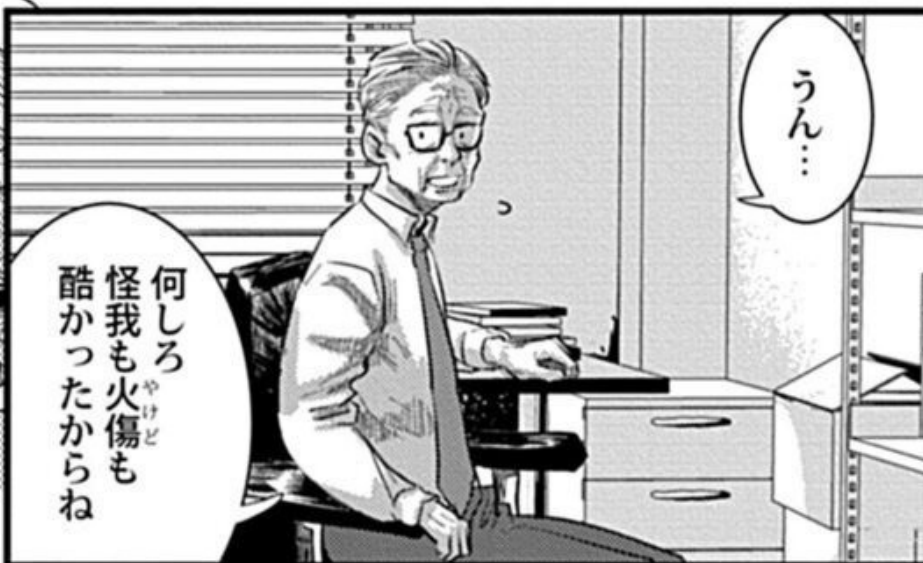


僕に突きつけられたのは



かつて死産で産まれた子以外に
早坂氏に子はいないという事実だった





寒風も和らぎ

こちらもようやく
春の兆しが見えて
参りました

その節

大変ご心配とご迷惑を
おかけした怪我も
経過は順調で

今は杖無しで
歩く練習も
できるようです

陽春のみぎり

高輪さん

杖忘れてるよ

皆様の益々のご健勝を願って



やあ
ありがとう

日差しは
大丈夫だったかい？



うん

これぐらいなら
平気

追伸



今年は郷里にも

あの白い花が
咲きました

END

Adam [ア ダ ム]

群れ落ちる白い花 3 【R18 版】

著者

つくも号

© TsukumoGO 2022

レーベル

アダムコミックス

発行

ブレインハウス

本作品はフィクションであり、実在の人物・団体・地名とは一切関係ありません。
本書の無断転載・複写・複製・上演・放送・アップロード・デジタル化を禁じます。

本書を代行業者等第三者に依頼しスキャンや電子化することは、
たとえ個人でのご利用であっても著作権法上認められておりません。